



2019年度 東北大学教養教育院
総長特命教授合同講義

多様性と現代



2019年

11月18日(月) 4・5講時 14:40~17:50

マルチメディア教育研究棟

2階 M206

当日配付資料

14:40 開会挨拶 **滝澤 博胤** (たきざわ ひろつぐ) 理事・副学長、高度教養教育・学生支援機構長、教養教育院長

講義1 **進化的視点からみる精神的個性・価値観の多様性**

河田 雅圭 (かわた まさかど) (進化生物学、生態学) 生命科学研究科教授

講義2 **多様性と多文化共生**

佐藤 嘉倫 (さとう よしみち) (行動科学、ソーシャル・キャピタル論) 文学研究科教授

講義3 **多様性と主体**

座小田 豊 (ざこた ゆたか) (哲学) 教養教育院総長特命教授

質疑応答

16:10 休憩 【質問・コメントシート記入、回収】

16:20 パネリスト紹介、質問への回答および討論

宮岡 礼子 (みやおか れいこ) (微分幾何学) **米倉 等** (よねくら ひとし) (開発経済学、地域研究) **鈴木 岩弓** (すずき いわゆみ) (宗教民俗学、死生学)

山谷 知行 (やまや ともゆき) (植物分子生理学) **水野 健作** (みずの けんさく) (分子細胞生物学)

会場の皆さんも討論に参加してください

17:50 閉会

司会担当 **高木 泉** (たかぎ いずみ) (数理生物学) 教養教育院総長特命教授

■質問・コメントシート はA5サイズのカラー用紙です。休憩時間中に回収します。

提出いただいたものの中から幾つかを採り上げて本日の討論の材料とし、残りは後日、教養教育院のWebページ上でお答えします。

■今後の合同講義等の改善に役立てるため、講義終了後、アンケートへのご協力をお願いします。

この資料の最終ページに質問があります。回答は別紙ミニットペーパーに記入してください。

■下記の科目を履修している学生は、出欠の確認を兼ねますので必ずミニットペーパーを提出してください。《月4・5講時》

思想と倫理の世界：「無限」の近代—「理性」というラビリンス (座小田豊)

生命と自然：無から有をつくる植物のしくみ (山谷知行)

生命と自然：エッセンシャル現代生命科学 (水野健作)

【展開ゼミ】文学者の見た「死」—日本人の死生観 (鈴木岩弓)

【展開ゼミ】年中行事からみた日本文化 (鈴木岩弓)

■ご意見・質問など： 東北大学教養教育院 (高度教養教育・学生支援機構) 担当：鈴木かおる

TEL : 022-795-4723 Email : info@las.tohoku.ac.jp http://www.las.tohoku.ac.jp/

多様性と多文化共生

佐藤嘉倫
東北大学大学院文学研究科

1

多様性と多文化共生？

- 耳障りのいい言葉
- しかしその内実はどうなのか？
- この疑問を議論の出発点とする

2

多様性はいいことか？(その1)

- 戦闘状態にいる小隊



<https://mainichi.jp/articles/20161005/dtl/k2/8/040/493000c> (2019年11月7日取得)

3

多様性はいいことか？(その2)

- 町の和菓子屋



http://livedoor.blogimg.jp/petronius_toyama/imgs/7/7/7/7ee8976.jpg (2019年11月7日取得)

4

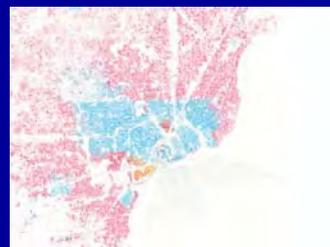
コンティンジェンシー理論

- 組織の最適な形態や構造はその組織を取りまく環境によって決まる。
 - 迅速に意思決定しなければならない状況ならば、多様性は必要ない。
 - ドメスティックな環境ならば、多様性は必要ないかどうかでもよい。
 - グローバルな環境ならば、多様性は必要である。

5

多文化共生は実現可能か？(その1)

- これも多文化共生(米国デトロイト市)



赤:白人
青:アフリカ系アメリカ人
緑:アジア系
黄:ヒスパニック
灰:その他

https://production-tcf.imgix.net/app/uploads/2019/06/21115913/michigan_redlining.png
(2019年11月7日取得)

6

多文化共生は実現可能か？(その2)

- これも多文化共生(サンフランシスコ・チャイナタウン)



<https://topic.hakutou.co.jp/seichi/wp-content/uploads/sites/2/2015/05/grantavenue.jpg> (2019年11月7日取得)

7

多文化共生は実現可能か？(その2)

- これも多文化共生(豊田市保見のスーパーマーケット)



<http://toyota-international.com/foxmart/> (2019年11月7日取得)

8

どうすればいいのか？

- 地元民と移民をつなぐ人、団体が必要。
- 橋渡し型社会関係資本(ソーシャル・キャピタル)



保見ヶ丘国際交流センター

<http://homigaoka.seesaa.net/article/99024208.html> (2019年11月7日)

9

多様性と主体—自分らしくあるために 座小田 豊

○問題設定

かつて私たちは、空間的にも時間的にも限られた領域の中で、たとえば一つの村や町の中で生まれ、育ち、生活し、そして亡くなっていった。自然的な村落共同体の中で、ある意味、単一で「モノクローム」な一生を送っていたと言ってよいだろう。

それに比べるなら、今日私たちは、おびただしい人や物に溢れかえった、複雑で雑多な、昏迷した社会に生きている。そこには、多様性に彩られた、多彩で豊かな？空間と時間の生活があるように思われている。

いずれが、自分らしく生きるにふさわしい環境であるのか、という問いが重要であることは言うまでもない。だが、すでに後者の社会の中に生を受け生きている私たちにとっては、両者を比較しつつも、その中でどのように過ごせば、そして考えれば、自分らしく生きることになるのか、が問題になろう。これが、すなわち「多様性と主体」への問いとなる。→それはまた「幸せとは何か」と尋ねる問いでもあろう。

われ等は自然の多様と変化のうちにこそ育ちあゝ 歓びと意志も亦そこにあると知れ

伊藤静雄(1906-1953)

「そんなに凝視めるな」(『凝視と陶醉』詩集『反響』1947年、所収)

話の構成：哲学・思想史の観点から

- 生命体としての「私」は、まさしく多様性の統一体である。
- この統一性を維持しているのはどのような機能なのか→「私」の意識
- ここでは、その意識「主体」としての「私」が多様性との関係のなかでどのようにして成り立っているのかという論点を中心に話を構成する

1. 「主体」とは
2. 「多様性」とは、その語源と意味
3. 自己同一性の確認と差別意識
4. 「私は私である」とは？
5. 自己と他者の関係1, 2, 3
6. 論理的観点から
7. 人間論の観点から
8. 哲学史の基礎知識から

1. 「主体」の語源から

「主体」subject (英) :sujet (仏) :Subjekt (独) ← subjectus (ラ) ← sub+icio ← sub+jacio下に+投げる・置く、服従させる

- (1) 主題、テーマ
- (2) 臣民、臣下
- (3) 主語、主辞

文法：主語

「私は……である」→「私は私である」

因みに：object (客体・客観)の語源←ob+icio←ob+jacio 前に+置く：差し出す→ 表象・想念

2. 「多様性」diversityの語源

- Diversity (英) ← diversus (ラ)
- ラテン語のdis-versus (反対の方向へ)を語源とするdiversusに由来する。versusはvs.と略されて現代語としても広く使われる「相対する」という意味。それにdis-という不分離接頭辞が結びついて分離の意味を強めたのがdiversus。意味は「背いた、まったく異なった、矛盾した、ばらばらの、etc.」。これがdiversityの語源である。例えばドイツ語ではVerschiedenheitやDifferenzと訳されるが、その意味するところは、「差異・異なり・違い」である→これが「差別・蔑視」につながる。
- したがって、多様性は「主体」に対しては、特に無数の特異な「他者」として立ち現れることになる。無論、この「他者」は人間に限らない。「私」以外のありとあらゆるものが含まれる。

3 - 1. 自己同一性の確認と差別意識

○「私は私である」の自己同一性を確認するために、多様な「他者」の認識が必要であることをまず認めよう。

○ところが、その「他者」の認識には、同時に「違い・差異」の認識が伴っていることも押さえておかななくてはならない。そこから「差別や蔑視」の意識や感情が生じることに注目しよう。

たとえば、1993年にノーベル文学賞を受賞した最初のアフリカン・アメリカンの作家トニ・モリソンは次のような印象的なことを述べている。

「奴隷が「異なる種」であることは、奴隷所有者が自分は正常だと確認するためにどうしても必要だった。人間の属する者と絶対的に「非・人間」であるものを区別せねばならぬ、という緊急の要請があまりにも強く、そのため権利を剥奪された者にはなく、かれらを創り出したもの[世界創造者の神のこと]へ注目は向けられ、そこに光が当てられる。」(『「他者の起源」(集英社新書、2019年)

3-2. 自己同一性の確認と差別意識

○モリスンの描く黒人奴隷と白人との、いわば極端な差別的な関係はすでに克服された過去のことだと言えるだろうか。私たち自身の意識の中にそうした差別意識がないと言い切ることもできないのではないか。

自己同一性の意識は多様な「他者」との差異の認識によって確保されるものだが、このような「他者」とは、私たち自身のことではないのか。そのような差別され、蔑視されるべき「他者」は、モリスンが言うように、私たちの内なる自分自身の姿の投影に他ならない。かくして、自己正当化は自己蔑視であることが明らかになってくる。

こうした事態をドイツの哲学者ヘーゲル(1770-1831)は、「他者はおのれ自身の他者である」と表現している。彼によれば、この「他者」が自分自身であると認める時、人は初めて本来の自由な「私」になりうる、というのである。

4. 「私は私である」とは？

「私は私である」の主語と述語の同一性を、どこまで保持できるのかということによって「主体」の重さが計られる。時と場合を考えると、私たちは「私は私」とどこまで主張できるのかは、簡単ではない。「私」を適切につかむことは誰にとっても難しい。「私」を過大に見積もっても、過小に評価しても、自分で足を絡ませて転んでしまいそうである。では、私たちが主体的に生きるとはどのようなことなのか。

実のところ、自己同一性を確保するには、何よりも他者・多者を必要とする。「私が私である」という同一性の意識は、自分自身と他者・多者との差異と類似性を介して初めて可能になるものだからである。つまり、隣の貴方との違いと類似点の確認を伴ってこそ、「私が生きる」ことが成り立つ。「人間」という概念を例にとれば、個人的な差異を一切無視すると、誰もが同じ「人間」ということになるはずである。しかし、「同じ人間」などいるはずがない(クローンでさえ個としては別人である)。

5-1. 自己と他者の関係

・私たちにとって重要なのは、自分は「どのような人間なのか(人間たりうるのか)」ということであろう。人はおのれを意識するのに、必ず他者を必要とし、彼(女)との同一性と差異性を意識することでおのれを「知る」。そして意識されるその他者が多様であればあるほど、それに呼応して自分自身の生命の内容も豊かになってくる。なぜなら、**多様な他者たちを合わせ鏡にして初めて、人は自分の後ろ姿を省みるものだからである。**

・論理的な言い方をするなら、同一性とは本来、同一性と差異性との同一性である。他者との同一性と差異を介してこそ、私たちの「自己同一性」は確保される。そのことを踏まえるなら、人間のみならず、自然的世界の多様性を介して、私たちは自然的存在者であるおのれを生きているのだと言うべきではないか。

5-2. 自己と他者の関係

もちろん私は、自然的存在者でありながら、植物とも他の動物とも、さらには他の人たちとも異なる「私」であることは、自明である。

- この世界には、この「私」と同じものは何一つとして存在しない。とはいえ、まったく異なるものもまた存在しない。私たちは、植物たちによって、動物たちによって、そして人間たちによって生かされてあり——それらや彼(女)らに対して抱く棄嫌と愛惜の情の別と差異は、それらの存在者に応じて、まったく多種多様ではあるが——、常に同時にこの自然的な、あるいは人間的な世界のうちでそれらと相争いながらも共生し共存し合っている。
- 「私」が自分らしく生きるとは、このような多様性の世界の中において、自分を「主体」として実感することに他ならない。つまり、多様性あってこそその主体的な生なのである。

5-3. 自己と他者の関係

・たとえば、「私の唯一性」=独自性=個性は、それを確認するのがほかならぬこの私であることからして、自明だと思われていよう。しかし、その中身、「独自」であることの内実が問われるなら、その自明性は瓦解する。この独自性=唯一性そのものが、他との関係性によって成り立っているからである。

・他者と無関係であるということ自体厳密には成立しえない。それが意識される場合であっても、他者との関係においてのことではないだろう。「私の唯一性は他者との関係を否定して意識される」というのもない。むしろ、他者とのかわりのなかでこそ、はじめて確信されるものとなる。他者から「屹立した私」はむしろのこと、「隔絶した私」も「浮遊する私」も**他者において意識される**のである。

ならば、どうするのか？

6. 論理的観点から

- 同一性と差異性
同じと異なり(一緒と別々)
- 単一な関係と相関関係
自己関係と他者関係
- 個性と多様性(一と多)
統一と区別・差異

これら二つの項はいずれも密接に関連し合っている

7. 人間論(de homine)の観点から

1. 人は人にとって狼である
2. 人は人にとって神である
3. 人は多様な他者を介して「人間」になる

↓

- 人は「自然的共同存在」である
- 「主体性 Subjectivity」とは「自然的共同主体性・世界間主体性 Inter-subjectivity」である

8. 哲学史の基礎知識から

- ライプニッツ(1646-1716)
不可識別者同一の原理・十分な理由の原理
- フィヒテ (1762-1814)
自我の自己定立 = 他我の反対定立
- ヘーゲル (1770-1831)
「承認をめぐる闘争」→相互承認論と自己意識論

総長特命教授合同講義「多様性と現代」 アンケート

2019年11月18日

- (注1) このアンケートは、今回の合同講義に対する皆さんの率直な感想などをお聞きし、今後の教育改善に役立てようとするものです。**対象講義（下記）の履修学生はこの提出をもって出席確認としますので、必ず提出してください。**回答は別紙のミニットペーパーにご記入のうえ、退場時に教室入り口にある箱に入れてください。
- (注2) 今回の合同講義に関するレポート提出等については、各担当教員の指示に従ってください。
- (注3) ここでご記入いただいた情報は、出席確認のほかは、回答の傾向分析のためにのみ使用し、個人の回答そのものを調査する目的では使用しません。また、個人情報第三者には開示・提供いたしません。

【ミニットペーパーの表面の記入】

●対象講義（下記）履修学生

（学籍番号）（所属学部）（氏名）マークシート、記入式ともすべて記入してください。

（科目名）には、受講している科目と担当教員名を記入してください。

■対象講義（月曜日4講時・5講時）

思想と倫理の世界：「無限」の近代—「理性」というラビリンス（座小田豊）

生命と自然：無から有をつくる植物のしくみ（山谷知行） 生命と自然：エッセンシャル現代生命科学（水野健作）

【展開ゼミ】文学者の見た「死」—日本人の死生観（鈴木岩弓） 【展開ゼミ】非中行事からみた日本文化（鈴木岩弓）

●履修学生以外（学生、教職員、その他）

学生の場合は、マークシート、記入式とも（所属学部）を記入してください。

○共通 （提出月日） 今日の日付（11月18日）を記入してください。

【ミニットペーパーの裏面の記入】

〔質問1〕～〔質問9〕は各質問の答えとなる1～4…などから選んで、1つ○をつけてください。

	4	3	2	1
〔質問1〕 興味	総合タイトルに興味を持った	少し興味を持った	あまり興味を持てなかった	興味を持てなかった
〔質問2〕 理解度	理解できた	少し理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった
〔質問3〕 面白さ	面白かった	やや面白かった	あまり面白くなかった	面白くなかった
〔質問4〕 テーマへの関心増減度	関心が増した	やや関心が増した	やや関心が減った	関心が減った
〔質問5〕 討論充実度	討論は充実していた	やや充実していた	やや不十分だった	不十分だった
〔質問6〕 合同講義の継続希望	今後も続けてほしい	どちらかといえば続けてほしい	どちらかといえば続ける必要はない	続ける必要はない
〔質問7〕 教養教育をいつ重点的に学びたいですか	1) 1-2年次、2) 3-4年次、3) 4年間を通じて随時、4) 大学院、5) 特にない・わからない			
〔質問8〕 将来の進路希望	1) 学部卒業、2) 修士修了、3) 博士修了、4) 未定			
〔質問9〕 将来の職業希望	1) 会社員、2) 公務員、3) 技師・医師・弁護士・会計士などの専門職、4) 研究者・教員、5) 自営・自由業、6) 未定・他			